

宿縁

十月号

如来さまの呼び声が

聞こえてくる



伝えるべきものがあるとき、その人が正しくそのものを把握していなければ伝わりません。

現代人にとって今、法事や仏事についての意識が薄らいでいることは、その意味があまりにまいになってきているからでしょう。

そこで法事や仏事を営む意味をしつかりと認識してほしいのです。「法事」も「仏事」も「法の事」「仏の事」ですから、ここに生きる私が仏法の教え、仏の世界について聞かせていただく場ということ。亡くなった

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

中原寺

TEL 0477-372102
FAX 0477-372102

浄土真宗
本願寺派

方をどうしようとするということ。で営むのではなく、亡き方を通して(縁となつて)遺された

私たちが仏法に遇わせていただく場となるのが仏事、法事です。仏の世界の話を聞くには、めまぐるしく動いてやまない脳や体を止めることが必要です。世間に生きる私たちの生活は朝から晩まであれこれと動き回って四六時中、止まることが許されません。動いていれば見えているように何も見えていません。わかっているつもりで肝心の事が何もわかっていない、勝手な思いを描いているだけです。己れの眼を己れが見たことがないように外部に左右されている人生は結局何も正しく見えてないということになります。止まってこそ、今まで通り

過ぎ去った景色が一つ一つ観察できるように、見えなかつた世界、気づかなかつたことに気づかされるのではありませんか。

そのことは、止まることの大切さを通して亡き人びとが、私を仏法に目を向け導いてくださるのが仏事、法事の場だと受け止めたと思います。

さて亡き人たちはどこに行かれたのでしょうか。「そんなことは誰も知らない、死んでこの世に帰ってきた人はいないのだから」と。自分のわかる世界、見たものだけが確かだと思っている人には至極当然の声かと思えます。

でも自分の見えているものだけが正しく、本当だと言えるのでしょうか。

サン・テグジュペリ作『星の王子さま』はとても有名な本ですが、その中で王子は「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。かんじんなことは、目に見えないんだよ」と教えてくれました。

私という存在は、自己中心で自分勝手な見方しかものごとを見ていないため、何が本当で何が偽りなのかを見極めることができません。

人は、正しくものを見ているつもりでも、自分にとって損か得かという自己中心で自分勝手な見方しかものごとを見ていないため、何が本当で何が偽りなのかを見極めることができません。

人は、正しくものを見ているつもりでも、自分にとって損か得かという自己中心で自分勝手な見方しかものごとを見ていないため、何が本当で何が偽りなのかを見極めることができません。

人は、正しくものを見ているつもりでも、自分にとって損か得かという自己中心で自分勝手な見方しかものごとを見ていないため、何が本当で何が偽りなのかを見極めることができません。

人は、正しくものを見ているつもりでも、自分にとって損か得かという自己中心で自分勝手な見方しかものごとを見ていないため、何が本当で何が偽りなのかを見極めることができません。

人は、正しくものを見ているつもりでも、自分にとって損か得かという自己中心で自分勝手な見方しかものごとを見ていないため、何が本当で何が偽りなのかを見極めることができません。

人は、正しくものを見ているつもりでも、自分にとって損か得かという自己中心で自分勝手な見方しかものごとを見ていないため、何が本当で何が偽りなのかを見極めることができません。

人は、正しくものを見ているつもりでも、自分にとって損か得かという自己中心で自分勝手な見方しかものごとを見ていないため、何が本当で何が偽りなのかを見極めることができません。

誰かさんが誰かさんが
誰かさんが見つけた
ちいさい秋見つけた
ちいさい秋見つけた
めかくし鬼さん手のなるほうへ
すましたお耳にかすかにしみた
呼んでる口笛もずのこえ
ちいさい秋見つけた
ちいさい秋見つけた

親鸞聖人は、その主著『教行信証』の文を結ぶにあたって、念仏の教えを伝えてくださった道綽禪師の次の言葉を引かれています。『前に生まれる(浄土)ものは後のものを導き、後に生まれる(浄土)ものは前のものあとを尋ね、果てしなくつらなつて途切れることのないようにしたいからである。それは、数限りない迷いの人々が残らず救われるためである』このようなわけであるから、この教えを仰いで、信じ敬うべきである』

阿弥陀如来がすべてのものを、迷いの世界から仏のさとりの世界(浄土)に生まれさせたいと誓われ、その誓いが成就した証拠の呼び声が、「南無阿弥陀仏」となっています。

以前、透明度世界一の湖は北海道の摩周湖だと聞いたことがあります。本当に清く透き通っているなら、湖面も五十メートル底も百メートル底も距離が無いということでしょう。

その浄土に生まれて仏と成っている先人はあらゆる相(すがた)を現じてこの私を導かん」と共に在(いま)すのです。

「仏は常にいませども、現ならぬぞあわれなる、人の音せぬ暁に、ほのかに夢に見えたまふ」(梁塵秘抄)

仏事、法事の営みを通してこそ吾がいのちの一大事に向き合うことができるのです。

お問合わせ : info@chugenji.jp

お問合わせ : info@chugenji.jp

お問合わせ : info@chugenji.jp

お問合わせ : info@chugenji.jp



【寺灯雑記】

○賑やかに「讃寿の集い」を楽しむ
9/7

敬老の日になんで、当寺婦人会では数年前から「お念仏に出会えたからこそいのち尊し」の思いから「敬老の集い」を「讃寿の集い」と名称を変え、9月の第1土曜日に会員みんなの楽しい集いを催しています。

この日は38名が集い、本堂で正信偈のお勤めのあと、前住さんから「わがこころよければ往生すべしとおもうべからず」の法語のお味わいを聞きました。

そのあと、門法会館にてお食事やたくさんのお菓子を楽しんで談話。詩吟、日本舞踊、唄などの披露があつて和やかな時間を過ごしました。

今回は最初に、子ども合宿に参加の若いお母さんのバイオリン演奏があつて美しい音色を聞き、また秋の唄を合唱しました。

○秋の彼岸会法要が勤められる

9/23
今年「暑さ寒さも彼岸まで」のことわざとは違い、夏の暑さが続く秋分の日、彼岸会法要が多く参詣者のもとに営まれました。

「仏説阿弥陀経」の読誦は僧侶が打つ節折(せったく)の音に合わせて堂内に響き、全員で唱和されました。

引き続きご住職の法話は、室町の同時期に親交があつたとされる蓮如上人と禅の一休さんとの間に伝えられるほのぼのとした話のやり取りを紹介しながら、阿弥陀仏の浄土について話をされました。また前住さんの法話は、阿弥陀経に説かれる浄土の相阿弥陀仏の救いのはたらきについて、そして何故このお経を「難信の法」と釈尊は申されるのかをお話しされました。

世間のことに埋没してやまない私たちがお念仏の教えに遇うことの難しさとその故にこそ何ものにも代えられない遇法のよろこびの味わいを語られました。

○敬弔(南無阿弥陀仏)
*麻木隆一様 (門信徒会副会長)
八月十一日 ご往生

*杉田善久様 (元仏教壮年会会長)
九月二十二日 ご往生
寺門興隆に尽くされご苦労いただきました。心より感謝申し上げます。

【サヘル・ローズさんの講演!】

講題「出会いこそ 生きる力」
日時：十月十九日(土)
一時三十分開演

場所：山崎製パン企業年金基金會館
入場無料

自分とは異なる生い立ちや境遇の人たちと触れ合うことは、人として生きる新しい視座や価値観をもたらしてくれます。

かつてイラン、イラクの戦禍に遭い、さまざま苦難を乗り越えながら、いま日本で女優として、タレントとして、国際人権NGOの活動など幅広く活躍されているサヘル・ローズさんをお迎えしての講演会です。知名人ですので多くの方の来場が予想されますが是非この機会をお見逃しなくお出かけください。

【法要・法座・行事案内】

◇親鸞聖人報恩講法要修行
*十一月二十日(水)
・親鸞さまを讃える音楽の夕べ 五時
バイオリン等による演奏
・速夜法要：「初夜礼讃偈」 五時半
引き続き：「親鸞聖人御伝鈔拝読」
法話：鎌田宗雲師 六時半
・お斎接待

*十一月二十一日(木)
・朝のお勤め「正信偈和讃」 六時半
・日中法要：「讃仏偈」 十一時
引き続き法話：鎌田宗雲師
・お斎接待 正午

・ご満座法要：「正信偈和讃」 一時
引き続き法話：鎌田宗雲師

報恩講とは、真実のみ教えをお示しくくださった親鸞聖人に感謝し、阿弥陀様のお救いを改めて心に深く味わわせていただく、一年で最も大切なご法要です。忘恩とならぬようどなたもお参りください。

○婦人会法座 十月五日(土) 一時
十月の法語カレンダーより

○門信徒会役員会 十月五日(土) 三時半

○子育てサロン(パンダっ子) 十月十五日(火) 十一時～二時

○教行信証を学ぶ(行巻) 十月二十六日(土) 二時

○お仏具磨き清掃奉仕 十一月二日(土) 十時

○婦人会法座 十一月二日(土) 一時
十一月の法語カレンダーより

○壮年会法座 十一月二日(土) 三時
十一月の法語と話し合い法座

【十月の掲示板の言葉】

如来さまの
まなざしを
心棒にして生きる